

がれき処理の住民懇談会

多気町が来月開催へ

【多気郡】多気町の久保町長は十三日、記者会見し、震災がれきの広域処理について「七月早々から、町内の四十九自治会と懇談会を開き、住民の意見を聞く」と話し、「被災地を応援しようという声が大半なら受け入れたい」との考えを示した。

賛成多数なら受け入れ

同町では、放射性セシウム不検出を条件にした松阪

市に同調していたが、県のガイドラインが同セシウム濃度が一キ当たり二〇〇マイクロシーベルト以下という基準にしていることから、町民の意見を把握することにした。

五月下旬から開いてきた

若手職員約八十人を対象にした懇談会では「安全が確認されるなら、（被災地を）助けるべき」という意見がほとんどだったという。会見で、久保町長は「若手職員が助け合いの気持ちを持っていてくれたことがうれしい。子どもを預かる保母も受け入れに前向きな考えだったことが分かり、感激した」と話した。自治会との懇談会では、県や環境省の職員に来てもらって説明してもらうとした。

（山下三男）



震災がれき処理について記者会見する久保町長。背景には「多気町震災がれき処理」のロゴが複数見られる。